

高齢期にある人々のこころの世界 ―講義と体験で学ぶ―

講師：秋本倫子先生（東洋英和女学院大学 人間科学部 准教授）

第一回 2024年8月18日（日）／第二回 2024年9月1日（日）

8/18、9/1の2回にわたり、秋本倫子先生（専門：高齢者心理学・脳障害と身体疾患の心理、箱庭療法の神経科学等）をお迎えし、当オフィスにおいて心理職・介護職関係の方を対象に「高齢期にある人々のこころの世界～講義と体験で学ぶ～」について研修を行いました。

今回の研修は我が国が超高齢社会となっている一方、中高年齢者の加齢に伴うこころの問題や理解を学ぶ機会が少ないことから企画しました。また現場で、働いておられる職員・支援者の方々、ご家族を支えていきたいという思いがありました。

小さな研修会ではありましたが、秋本先生のお人柄からくる温かな雰囲気の中で充実した研修会となりました。以下、参加者のご感想と研修の様子をどうぞご覧ください。

【参加者のご感想と研修の様子】

「各認知症の特徴のおさらいや、回想法を実際に体験したことが印象に残りました。現在高齢者と接する機会が多いので、高齢者の心理や認知症について学べる良い機会となりました。実際に回想法を体験することで、参加する側の心理的な動きを感じやすかったと思います。また、各領域で活躍されている同職種から様々な視点でお話をうかがうことができたのもとても勉強になりました。」





「講義を聞き、グループで箱庭作成の体験をしました。1回目の講義で、脳神経系の基本構造と高齢者の心理についての理解が深まりました。2回目では、箱庭制作で使う脳機能について、事例と共に説明されて非常にわかりやすく、また大変興味深い講義でした。グループで箱庭を作る体験は初めてでしたが、グループの最初にあった緊張や不安が、だんだん和やかな雰囲気になったのを経験し、箱庭のもつ力を感じました。研修は、非常に内容の濃い、有意義で充実した2日間でした。」



「これまでの私の臨床経験では、子どものクライアントを対象に箱庭を実施することが多くありましたが、本研修で、箱庭を高齢者のクライアントへ実施した実際の事例を聞き、箱庭というのが年齢を問わず“心の世界を表現するツール”であることを再認識しました。神経心理学に準拠した解釈も非常に興味深く、今後の臨床実践において是非活かしていきたいと感じました。また、グループでの箱庭制作の実習を通して、グループ力動の変化を肌で感じ、箱庭のもつ力を改めて実感する機会となりました。」